

施策	27	文化芸術の振興				政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり	
施策主管課	文化会館		課長名	小木曾 学	内線	4220	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一	
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課、美術博物館、中央図書館、公民館								
重点施策	関連計画	地育力向上連携システム推進計画、文化芸術振興基本方針							

1 施策の目的

目的	対象	市民							
	意図	いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ 自己表現の機会が得られる 文化活動を主体的に担う の意図は、「日常的に文化芸術に親しむこと」と定義する。							

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
住民人口		人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理									
文化芸術を鑑賞したことがある人の割合		%	64.1	63.6	62.7	60.6	58.5	53.9	65.0
文化芸術活動を行っている人の割合		%	32.1	29.4	26.0	27.8	29.6	27.8	33.0

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度	
行政	文化芸術を鑑賞し、活動を行える施設を整備する。 文化芸術に関する情報を収集し、提供する。 文化芸術の担い手を育成する。 小中学校、高校で文化芸術の担い手を育成する。 市民等による鑑賞機会の提供、創造活動、ネットワーク作り活動を支援する。	-1文化芸術施設数(文化会館、人形劇場、公民館(地区館を含む)、美博、黒田人形浄瑠璃伝承館、今田人形の館、竹田人形館、川本人形美術館、創造館 単位:館)	-1	30	30	30	30	
		-2文化芸術施設延べ利用者数(の施設の利用者数の計 単位:人)	-2	1,031,421	1,006,638	1,017,188	1,011,944	102万
		-1ホームページ開設数(実績把握 単位:個)	-1	12	12	13	17	11
		-2市広報誌等掲載回数(実績把握 単位:回)	-2	288	427	372	467	210
		担い手育成事業数(実績把握 単位:回)		611	906	860	861	400
		小中学校、高校で実施した担い手育成事業数		92	108	130	146	150
		-1市教委等が共催、後援した文化芸術関連の事業数(実績把握 単位:回)		80	83	97	111	100
		-2文化活動や創作活動を支援した団体数(文化系社会教育団体、施設利用減免団体、その他育成団体 単位:団体)	-2	1,618	1,774 4,766	1,834 4,774	1,719	1,700
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項					
市民等	個人	文化芸術を鑑賞する。 文化芸術活動を行う。	文化芸術活動を鑑賞した回数 文化芸術活動を行った回数	文化の主体は市民である。多様な主体の協働を推進するために、「文化芸術振興基本方針」の役割を尊重した取組みを進める。				
	団体	文化芸術を鑑賞し活動を行える機会を提供する 文化芸術活動の担い手のネットワークをつくる 地域の文化芸術活動への積極的な支援を行う	鑑賞又は活動機会の提供を実施した回数 -1ネットワークの数 -2文化芸術活動を企画運営する実行委員数 支援を行った回数	文化会館が取り組む文化芸術活動においては、市民中心、主導による多様な主体の協働による活動が行われるよう、すべて実行委員会を構成して実施している。				

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・成果指標である「文化芸術を鑑賞したことのある人の割合」は53.9%であり、H20の66.2%から6年連続して減少傾向にある。近年は、スマホやタブレット端末の普及により、劇場等へ足を運ぶことなく、さまざまな手法により文化芸術を享受している人が増えている。また、企業や市民団体が実施するホールを利用しての文化芸術鑑賞事業が減少していることも影響している。

・一方、「文化芸術活動を行っている人の割合」については、H23の26.0%からH26は27.8%と僅かな増減にとどまり、横ばい状態である。少人数の音楽演奏団体が増えていたり、美術博物館の市民ギャラリーでの市民団体の写真展などが増えているように、市民意識調査が想定しているよりも文化芸術の幅や対象が広がってきていることや文化芸術活動が生活の一部になっている状態が見られ、市民の文化芸術活動は減少しているとは言えない。

・また、文化会館等が市民と協働して取り組んでいる人形劇、オケ友音楽祭、伊那谷文化芸術祭等の文化芸術活動における鑑賞者の人数には、減少する傾向は見られない。これら、市民が事業の企画・運営に主体的に参画する飯田の特徴的な活動への市民の参加意識が高いことを示すものである。

・さらに、地元高校生の書道パフォーマンスへの挑戦、人形劇センターの年間を通じての人形劇に関する事業及び市民グループの活動など、市民の自主的な活動が広がってきていることは評価できることである。

【事務事業群テーマ別の評価】

文化芸術施設の整備・維持管理

- ・計画的な施設・設備の改修など利用者の利便向上を行った。
- ・文化会館ホームページに利用団体の実施する事業の紹介を掲載した。

参加しやすい鑑賞機会の提供

- ・人形劇フェスタの開催期間を見直し、通常開催年としては初めて6日間とした。今後、屋外催事等猛暑への対策が課題である。
- ・オケ友音楽祭は、「学ぶ」「楽しむ」「広める」を基本理念として、さまざまな事業を行った。
- ・若者を主な対象としてポップのコンサートを開催したことによって、文化芸術鑑賞における裾野を広げることができた。
- ・日夏耿之介記念館の展示を定期的に行い、来館者に新たな情報を提供できた。
- ・美術博物館を利用しやすいように、「美博まつり」や「櫻と夜間開館」などを行うとともに、「年間パスポート」の種類を見直したことにより、利便性が向上した。

自己表現の機会の提供

- ・フィギュアシアタ・デザインコースや人形劇ワークショップ(第3期)を実施、4回上演した。また、講師も二人体制で、きめ細かな指導を行うことができた。
- ・小・中学校における人形劇制作の取り組みに対し、講師派遣、指導者研修、中学生合同講習会の実施等による支援を行い、子どもたちの創造性、表現力を高めることができた。しかし、学校から、講師派遣の一層の充実を求められている。
- ・美術博物館では、「子ども美術学校」や「現代の創造展」を行い、自己表現の機会を提供している。

文化芸術の担い手育成

- ・オケ友音楽祭クリニックでは、基礎コースをレベルに合わせて細分化し開催したことにより、音楽クリニックの効果をより高めることができた。
- ・フィギュアシアタ・デザインコースや人形劇ワークショップ(第3期)の実施により、参加者が、脚本制作や美術制作に関する専門的な知識、技術を学ぶことができた。
- ・特別に芸術鑑賞できる「美術博物館年間パスポート」会員向けの講座等を開催し、文化芸術の魅力を深める機会を提供できた。また、「子ども美術学校」や「現代の創造展」を行うことで、担い手の育成にも取り組んでいる。
- ・「伊那谷の自然と文化」に係る市民研究団体の活動を支援し、一緒に事業を展開することができた。

文化芸術による交流

- ・人形劇フェスタでは、人形劇活動の盛んな地域との交流を図るため、「人形劇 北海道フェア」を特集として行い、アマチュア人形劇の原点である北海道の劇団を招聘、交流を図った。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

市民主体、多様な主体の協働による文化芸術活動の推進及び人形劇を通じた「小さな世界都市」づくりのため、次の事項に取り組む。また今後さらに、幅広いジャンルや市民の皆さんの各層(年代、性別など)ごとの嗜好等を反映しながら、文化芸術事業に取り組む。

文化芸術施設の整備・維持管理

- ・使用料等の定期的な見直しを行い、施設間の均衡、利用者の利便の向上を図る。
- ・4つのホール施設について、公共施設マネジメントに則して、各ホールの特性や利用実態等を検証し、今後のあり方方針を策定する。
- ・人形館の魅力を発揮できる効果的な管理運営に努めるとともに、川本人形美術館の指定管理者と連携し魅力アップを図る。
- ・文化会館における公共施設予約システムの導入研究を進める。
- ・ホールスタッフのサービス基準の明確化、危機管理マニュアルの共有化に取り組む。

参加しやすい鑑賞機会の提供

- ・いいだ人形劇フェスタ、オケ友音楽祭、伊那谷文化芸術祭、舞台芸術鑑賞事業等を通じて、市民が多様で質の高い舞台芸術を身近に鑑賞できる機会を提供する。
- ・音楽、演劇、落語など市民団体等による鑑賞機会の提供活動を支援する。
- ・オケ友音楽祭、舞台芸術鑑賞事業などの実施内容を、ニーズ等も踏まえて見直し研究を行う。
- ・8月に、アフィニス夏の音楽祭の音楽監督、講師等の出演による「アフィニスのふるさと飯田コンサート」を開催する。
- ・人形劇フェスタにおいては、参加者へのサービス、猛暑対策等の観点から開催期間を実験的に6日とし、様々な人形劇を楽しむ機会を提供する。
- ・美術博物館等において、市民が様々な文化芸術を鑑賞できる機会を提供するとともに、「年間パスポート」の普及を進める。
- ・日夏耿之介に関する見学会を計画し、日夏だけでなく中心市街地の魅力再発見を視野に入れる。

自己表現の機会の提供

- ・人形劇ワークショップ等の成果を踏まえて、フェスタ等発表の機会を提供し、主体的な活動の継続を支援する。
- ・伊那谷文化芸術祭を開催し、舞台芸術の発表の機会を提供する。
- ・美術博物館では、「現代の創造展」や「子ども美術学校」、「小中高生写真作品展」、「小中学校郡展優秀作品展」、「風越高校書道部展」などを開催する。

文化芸術の担い手育成

- ・市民舞台芸術のレベルアップ活動や新たな舞台芸術を創造する活動など、市民主体の文化活動を支援する。
- ・オケ友音楽祭クリニックの成果をさらに高めるため、カリキュラムを改善する。
- ・人形劇関係資料の把握及び収集、利活用に係る方針を策定する。
- ・「伊那谷の自然と文化」に関する市民研究団体との関係を見直しながら、その活動を一層支援する。
- ・美術博物館では、「年間パスポート」会員向けの講座やワークショップ等を継続し、魅力ある「伊那谷の自然と文化」を市民が担えるようにする。また、「第10回藤本四八写真文化賞」「子ども美術学校」などを開催する。

文化芸術による交流

- ・いいだ人形劇フェスタを開催し、施策81(交流による高付加価値化・国際化の推進)の展開との連携を図りながら、人形劇を通じた「小さな世界都市づくり」を推進する。
- ・人形劇フェスタにおいては、地域間交流として、昨年の「北海道フェア」に続き、「愛知特集」に取り組む。
- ・AVIAMAやウニマ等を通して、国際的な交流を促進する。
- ・「南信州交流アート展in渋谷ー南信州のアーティストたちー」への協力、支援をする。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標

施策2-7

対象
市民

意図

いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ
(=日常的に文化芸術に親しむ)
自己表現の機会が得られる
文化活動を主体的に担う

成果指標

文化芸術を鑑賞したことの
ある人の割合

文化芸術活動を行っている
人の割合

文化芸術施設の整備・維持管理

参加しやすい鑑賞機会の提供

自己表現の機会の提供

文化芸術の担い手育成

文化芸術による交流

事務事業

文化会館等管理運営事業
人形施設管理運営事業

人形劇公演開催事業
舞台芸術鑑賞事業
美術鑑賞機会提供事業
日夏耿之介顕彰事業

伊那谷文化芸術祭共催事業
いいだ人形劇フェスタ開催事業
オーケストラと友に音楽祭開催事業

県展飯田展参画事業
美術博物館市民ギャラリー活用事業

市民舞台芸術創造支援事業
人形劇創造支援事業
美術活動推進事業

人形劇のまちづくり事業